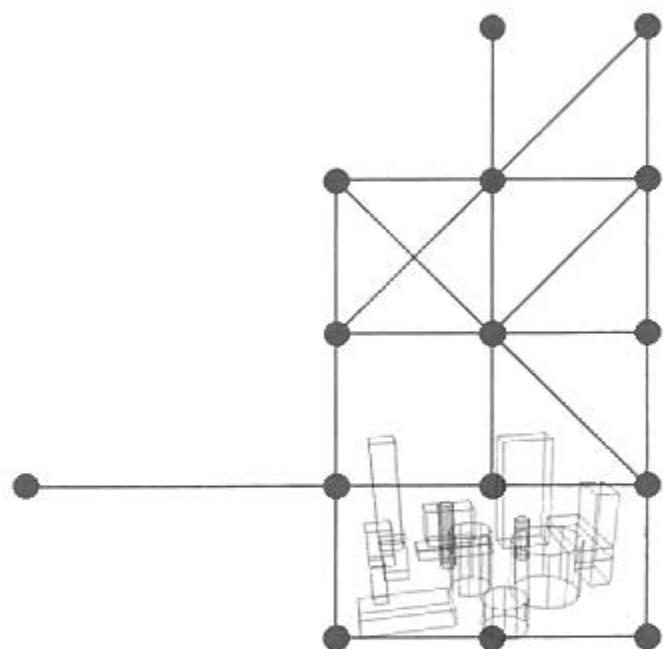


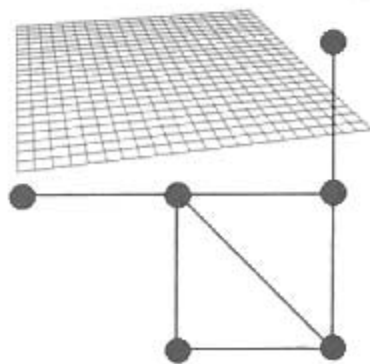


ITSUMIKAI

五三会

広島工業大学建築学科同窓会

平成2年度版



目 次

ごあいさつ.....	2
OBだより.....	4
OBだより(近畿支部).....	10
在学生だより.....	12
第15回五三会コンペ入選発表.....	14
建築学科ゼミ紹介.....	20
1989年度内定者一覧表.....	22
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿.....	24
母校キャンパス案内.....	25
第17回総会のおしらせ.....	26
五三会活動報告.....	27
五三会収支決算報告.....	28
広島工業大学建築学科同窓会「五三会」会則.....	30
人工衛星画像地図頒分のご案内.....	32
五三会第17号(平成元年度版)スポンサー一覧.....	33
編集後記.....	34

ごあいさつ



五三全顧問 中尾 好昭

昨年ごあいさつ文を書いてから1年経ってしまいました。その間昨年度の卒業生を送り出し、今春の卒業生の就職も決まりました。御存知のように、建築学界における人手不足、学生諸君の中央へどんどん出てゆくという積極性などの反映と思われますが、ここ数年建築学科の就職状況は非常に良くなってきています。

まず今の時期（H. 2-2-5 現在）に未決定者なしというのは初めてのことと思います。つぎに、これを直ちに就職状況が良いということにつなげるのは早計ですが、就職先企業の上場率が今年45.9%となり、電子の45%を抜いて遂に6学科中1位になりました（絶対数でも78社と2位の機械の63社を抜く結果となっています）。また大手5社中就職者のないのは清水建設と鹿島建設だけとなり（ただし縁故では鹿島建設に1名採用して頂いています）、今年はさらに少なくともこれらの内の1社にはチャレンジする人が現れそうな勢いとなってきました。

さらに、公務員も従来から多かった土木の4名に次いで3名と健闘しており（国家公務員2名、市役所1名）、最後に国立大学への進学者数も5名となり機械4名、電子3名などに比し若干多目の傾向を示してきました。この傾向は今後も続くのではないかとこの見方が強いようです。

このような結果は、上に述べましたように、学生諸君の頑張り、時代の流れに起因するものかもしれませんが、私は就職担当の先生を始め関係各位の御苦心のお蔭も大きかったと思っています。これらの先生方の御努力により、就職指導システムとでもいうべきものが次第に出来上ってきたように思います。今後も少しずつ工夫を加えながら広工大の伝統が築き上げられてゆくものと思われます。

ただ、我々の意識がこれまで「中央へ恐れず出てゆく」、「大企業にチャレンジする」ことに向けられてきていたことは否めません。このような方向は工大卒業生の質を世間に見て貰い、結果的に工大の評価を高める上で非常に重要なことであるとは思っています。しかし、次の段階として、我国いやさらに世界

は色々な立場の職場での人々の働きによって支えられていること、この人々の個性ある活動によりこれからもっともっと発展するものであるとの考え方が盛り上がってきているように思います。

ここで非常に重要となって来るのは、我々の一人一人が本当に自分がやりたいことは何かを知ることであると思います。これは非常に難しいことではありますが、本当に自由な自己実現は皆が心から念願するものだと思いますから、是非努力を続ける価値があると思います。

例えば私は、九州から広島に出て来て約30年、その間或大企業に定年まで勤めた後4年前から本学にお世話になっています。今私の中には、前に居た企業の為になるということとを大きくのみ込んだ形で、この広島に対して何か役立ちたいという気持ちが広がっています。無論現在自分が奉職しているこの広島工大に発展して貰いたいのは言うまでもありません。しかも自らの専門である建築を通して世の為になる仕事をしたいと思っています。私の場合は大部分他動的に進路が決って来たように思います。しかし、よく考えるとそれでも選択の可能な範囲内で自分なりに自分のやりたいことを模索してしまったのではないかと思います。まして、上述のようにこれからは個性化の時代です。今後の卒業生諸君にも是非自分が何をやりたいのかを本気で考えて就職先を選んで頂きたいものと思います。そして選んだ以上はそれを是非成功させて下さい。

ところで、昨年のごあいさつに書いた製図室の件ですが、学科の先生間での討議を経て担当の先生による案が今年の夏休みには実現する運びとなりました。決して十分なものではないと思いますが、総長先生の御指導も受け、苦しい予算の中からできる限りの改善を計る努力が夏まで続けられると思います。「夜遅くまで煌々と灯りがつき、建築が好きで好きでたまらない学生さんたちが、コンペを目指して頑張っている」という製図室の実現への努力を続けたいと思っています。

会長あいさつ

五三会の皆さんへ

五三会会長 三 上 明 夫

会員の皆様、いかにお過ごしでしょうか。各職場の第一線で奮迅の御活躍のことと思います。

昨年は、第一期生が卒業して20年ということで、五三会の総会も広島厚生年金会館で、中尾教授をはじめ、多数の方々に出席していただき、新旧会員の皆様で大いに、盛り上がり、有難うございました。

昨年は、また世界中のいたるところで、だれおも予想も、出来なかった様な、激しい変化、変動の連続で驚きの毎日でしたが、国内の経済は内需拡大の進展に一段と弾みがついて、建築業界においても、「'89海と島の博覧会ひろしま」をはじめ各地でビッグプロジェクトが次々と実施され、大へんな好況でした。

今年1990年の声を聞いて数年来よりの流行語「世紀末」につきまとった雲をつかむよう

な言葉にも現実味が出てきて、21世紀への序奏が、なるほど始まったように、思えてきた今日この頃ですが、しかし難しい問題もおきています。

建築単価の上昇、型枠大工など技能者の不足と高齢化、とりわけ若い人の建設業離れの現況が益々深刻になりました。

すでに皆様方は社会において広島の振興に、日本の活性化に深く関わっておられることでしょう。

それぞれの立場で建築界のイメージアップをはかり、若い人達が、建築学科の学生が魅力を持つような建築界にする為に務めなくてはなりません。

この様な時期に、同窓の皆様と共に地域社会と深い関係をもって、素晴らしい仕事ができることに感謝します。

してそれが実感でき、あるいは実現化しうるのか？必要に応じて個々が集合し協働作業完了後又、分散するというフレキシブルな関係の中に、それぞれが情報化を計り、そしてその範囲は、日本のみならず海外へと国際化を計ることができないだろうかということです。

以上の三つの問題を課題として“2×4”工法の実現化の中でさらに検討し、できうる事ならば、新たなシステムづくりができればと思いつつ実動へと踏切発進しました。

3. 実現化へ向けて

その1. (昭和63年12月)

“2×4”工法の実現化に際し、現実問題として法的規制、部材等の輸入手続き、設計上あるいは、施工上の問題等々と考えれば切りがない程です。これらの机上作業に一応の見通しが着いた所で、“まず1棟建ててみよう”という事になりました。“T”さんが自ら施主になり、18坪程度の別荘を企画。しかもこの別荘の設計は米国の建築家に依頼し、施工も米国の職人にて行おうというものでした。つまり“2×4”工法の本場である米国において、通常とられている設計、あるいは施工方法を日本にて再現し、まず、生の“2×4”工法を体験しようというものです。

“2×4”工法の住宅又は、建設中の現場は、広島市及び周辺地域にも多々展開されている様ですが、いわゆる“日本式2×4”工法というものらしく、日本人向けに施工サイドがそれぞれ各所をアレンジしたものばかりです。数ヶ所現地にて視察しましたが、今一つ感覚的に満足のいくものではありませんで

した。

未経験の私たち二人が、共通した志を持ち、これから展開していこうとしているものとは、何か異なっている様に思え、“虎穴に入らずんば虎児を得ず”の精神で材工共一式直輸入したのです。

構造体(床・壁・屋根)のパネル化から建て起こし、そして内装工事と家具類のセットまで、外人の大工:1人(全ての工事ができる技術をもっている)と日本人手元:2人で約2週間にて完了。(但し基礎工事及び設備工事は除く)手際の良さと施工スピードにはただ驚くばかりでした。

同一部材を多様に使用し、各所を組み立て、仕口は全て平継ぎで、針をはじめとする種々の金物にて補強する。構造部材(2×4部材及び構造用合板)とそのフレーミング、そして開口部及びその補強、そして仕上及び家具類等々全てに整合性があり、材料の生産規格から設計そして施工手順まで、一貫性した合理性が有り、興味あるものでした。

但し、細部に至っては、施工精度が荒く、外国人と日本人の価値感の相異からか、納め方一つにしても少々のお粗末な感が見受けられ、特に雨水に対する処理の仕方にあまざがあるのではないかと感じました。

いずれにしろ、米国人と日本人の合理性に対する考え方の違い、あるいは感性の差違を、この別荘建設の中にかい間見た様な思いがしてならなかった。

4. 実現化へ向けて

その2. (平成元年6月～12月)



“今思う”

consultant, SHIMOTU

下 津 博 行 (昭和49年卒)

早いもので卒業して16年の年月が流れようとしています。卒業生の皆様には各分野において大活躍の事と存じます。私は現在、広島市で建築関連のコンサルタント業務をめざしコンサルタント事務所を開設、日々仕事と金策(?)に追われ自分が想像していた以上に個人で事務所をいとなむ事の難しさを痛切に感じております。

さて、“人生には何度か節目がある”と言われてます。私もこの16年を振り返りますと何度か節目がありました(今後もあるかもしれないが)、最も大きな節目は一般の建築設計事務所から再開発、近代化事業のコンサルタント業務を専門とする都市計画事務所へ勤務先を移ったことがあげられます。今後ますます大きくなるコンピューター社会に備え、人間にしかできない事を追い求めるには、コンサルタント業務しかないのではないかと常々思っていたからです。

私の初めてのコンサルタント業務は、都市計画の事務所へ入社した年、富山県小矢部市で実施している市街地再開発事業、商店街近代化事業でした。何故富山県なの?富山は雪が多く降るだけの県じゃないのと思われる方が多いのではないのでしょうか。そうじゃないんです都市計画事業については我が国でも有数の先進県であり、現在でも各地で事業の計画・実施がなされております。特に私の携わった小矢部市は、我が国で初めて三つの事業(市街地再開発事業、商店街近代化事業、街路拡幅事業)の合併施行で中心商店街の改造を実施し完成した地区です。完成までに約5年の歳月を要しましたが、私のした事はほとんどが地元との折衝、地権者、商店主への説得と言う地味な仕事でしたが反面官公庁に対しコンサルタントとしての提言、補助金確保の為に建設省への同行、商店診断を受ける為の個別店舗の計画企画、診断書の作成等々私が予想していた面白い仕事も多くありました。ですから各分野に渡り幅広い知識が必要でありその知識が人を説得させる事もありました。且、全て自分の知識でなくてよいのですその道のプロを知っていればほとんど解答を出す事が

可能であり、その為にも各分野に渡り人を知らなければなりません。人を知る事により又自分の知識が広がって行きます。

私は、小矢部の都市計画業務を通じ人々との出会いの大切さ、信頼関係の重要さをいやと言う程知らされました。極論すればある事業において信頼さえ得る事ができればその事業はほぼ完成したと言えます。今からの我々にとっても全く同様であり、その人間関係が大きくなるよう活動的に生きてゆく必要があるのではないのでしょうか……

私もこの事を念頭に置き自分の目ざすコンサルタント事務所確立の為日々努力をして行きたいと思っております。

プロフィール

広島工業大学を卒業と同時に、藤山田保建築設計事務所へ入社、退社後、藤建築計画事務所 和敬へ入社、退社後、地元広島へ帰郷し、事務所を開設、現在に至る。

頭：やや大きい

足：短し

体：やや太め

その他標準



忙しい日々の中で

住工務所長 高 原 良 彦 (54年卒)

先日、ある手帳を見つけ出した。「1982年2月15日(火)。ローマを夜の9時45分の夜行に乗り、ベニスに朝5時30分着。雨。まだ外は眠っている。6時から駅の食堂が開く。それから1時間も待った。朝が白々と明けると、段々と水の音が鮮明に聞こえるのに気が付いた。駅の前には、すぐ運河がある。ボートに乗る。運河の中に信号があるのには驚いた。(中略)、サンマルコ広場に着いた。思っていたより鈍い光を教会の壁が放つ。折りから降りだした小雨のせいもあるだろうが、もっとキラキラとした建物と思っていたが、朝早い事もあり、まだ眠たい顔をしている……。」

8年前、1カ月余り、ヨーロッパへ自由旅行をした。卒業旅行を断念してから、3年待っての、想いを込めた旅であった。帰路の列車、新幹線の中で、「体験する空間と想像する空間とは全く違う。どこの都市へ行っても、どの建築を見ても、写真とは違い、その色からして想っていたものとは全く違う。(中略)、今はまだ本当のスタートラインだ。恣意的には決して造らない。建築することを積極的に引き受ける。それは、夢のような話ではなく、励んで努めることによってのみ開かれてくる。生きること、建築することは、即人生である。(中略)これを読み直すときは、今よりもっと、張り切って生きていますように。」と結んでいた。今、充実した旅を想い起こし、あの生き生きとした世界との出会いを契機に、頑張っている今の自分が居る。

その後、ギリシャ方面や、オーストラリアに行く機会を得たけれども、国々の興味深い建物や遺跡の平面図、歴史を調べたり、美術館の絵画等の配置や、解説書を調べ、時刻表を片手に行った旅が、とても良かった。そこには、自由に都市を巡り、異国の地を生々しく体験し、旅の中で鋭気を養っていた自分が居た。

現在は、一級建築士事務所、住工務所を開設し、東広島青年会議所の会員となり、実務に押し流されてしまいそうな、多忙な毎日ではあるが、旅行日記を読み返して見て、充実した、生き生きとした毎日を、今、さらに、生きてゆきたいものだと改めて思った。

「ひとこと、自分に」

森保ゼミ 岸 本 篤 治 (63年卒)

大学を卒業して、もう9ヶ月が過ぎてしまった。同じゼミだった友人からもそんな事を年賀状に書いてくる奴がいる。当たり前的事だが卒業した同期の仲間全員に同じ時間が経過したわけである。

大学時代とは比べものにならない程、多くの事を経験し、沢山の人に会う機会があった。それで感じたのは、今の自分には、なにも力がないという事である。何も知らないし、知らなければ判断できない。当然意見も言えないのである。大学時代は自分のスタンスが認識できていなかったせいもあり、何をやるにしても、まあどうにかなる。と思っていたが、それでは全然前に進んでいない事に気付いて、今さらながら後悔している。同じゼミだった仲間も今ごろ同じ思いを社会人として、感じていると思う。

自分が建築というものに興味を持ったのは、高校の時に初めて、読んで感動した、ブルータスという雑誌の別冊「CASA・居住空間学」という本で今でも大切に持って、たまに開いては眺めている。けっこう楽しい時間である。その本がバックグラウンドに新しい価値感の創造を設計できるようになって広く客観的に建築というものを考えてみたかったので今の会社に入った(住宅デザイン研究所)。その信念というか目標は忘れず、一日一日を納得いくような過ごし方をして頑張っていこうと考えている。はっきり言って今の時期から5年で差がつき、ほぼ人生の方向が確立してしまう。

社会人としての自分もそうであるが一人の人間として面白い人間になるにも同じ事が言えると考えている。できる限り自分に素直に、また厳しく毎日を大切に生きていこうと、入社9ヶ月の自分は、考えている。

できれば将来、CROSSのゴールドのベンが似合う男になりたい。

今、思う…

広島工業大学建築学科水田研究室研究生

岡田 英 治 (平成元年卒)

工大を卒業して最初の一年が過ぎようとしています。あっという間に時が流れていった感じです。私は就職せずに研究生として大学に残ったので、社会に出て行った同期の人達とは少々異なった一年でした。実際、大学にくるので卒業したといっても去年までとほとんど変わらない生活でした。しかしこの一年間は大変有意義だったと思います。四年生と建築を見に足を伸ばしたり、卒研についてアドバイスしたり一緒に考えたり、いじめたり…基、励ましたり…。三年生と幾つかのコンペに参加し、学会コンペでは支部入選したことなど…。そして、一足先に建築の世界に飛び出し、腕を磨いているであろう同期の人達と遅れをとるのがしゃくにさわるので、設計事務所でアルバイトをしながら実際の設計の勉強もしました。

単位を取ることに追われていた本科生の頃には経験しなかった多くのことを経験しました。

昨年何とか卒研を終え、後は卒業式だけと

いう頃になって多くの人達に迷惑をかけながらも、決まっていた就職をやめ研究生になることに決心して、自分の決めたことが果たして自分にとって正解だったのだろうかと不安だったあの頃を思うと、今、正しくはなかったかも知れないけど間違っただけではなかったと思います。そして、研究生になることを承諾して下さった就職先の人々や先生、両親、この一年私を支え話かして下さった多くの人達に感謝の気持ちでいっぱいです。

在学生の皆さん、もし自分のやりたいことがあって自分の力でそれをかなえられることができると思うなら、失敗を恐れずやってみたらどうでしょう。やり直しはいくらでもできます。やらずに悔やむことになるよりも素晴らしいと思います。

今、終了を目前に、研究生論文に頭を抱えながら、研究生として密度の濃い一年だったと言えませんが、多くのことを学び、感じ、体験できたことは大変よかったと思っています。

平成元年1月

欧州に思うこと —都市に魅力を一

朝日建設設計事務所

木原 多佳雄 (47年卒)

欧州のストック社会に対して、日本はフロー社会であるとよく聞く話題です。

欧州では過去の蓄積を活かし、新しい時代に対応した生活様式を徐々に造りあげているのです。それは西欧文明は中世から他の文明に揺らぐことなく、世界を先導する文明を保ってきたことにあります。現在においても、日本の生産力に西欧の経済はかなりの脅威を受けたが、一気に日本との経済戦争に突入することなく、西欧文明の土台を見極め、ストックを活かし、新たな対応策を練っているのです。

これに対して、日本は鎖国開放後や第二次世界大戦後、技術革命を中心として西欧文明を積極的に導入し、生産力向上を優先することで、それまでの日本らしさを一掃しつつあるのです。それは、日本は生産性を向上させることが常に基盤にあり、フロー性へ傾倒し、新製品開発に主要な能力を費やし、次々に新製品を打ち出しては購買力をそそっている状況にあります。

その様な思考体系がどのように都市に反映

しているかを見ていきます。

中世の建物が建ち並び、歴史的な街並が非常に良く保存されている一例としてプラハがあります。プラハの街はこの保存の良さをウィーンに見立てて、モーツァルトの生涯を描いた映画「アマデウス」の舞台として見事に中世の街を演じているのです。

街にはストリートカーや自動車は往来するものの、街のスケール感、主要な公共施設(劇場、大学、庁舎、寺院等)周辺の景観は実に良く保存されています。人々は中世に造られた建物を天性のものとして、生活システム、経済活動システムに適宜適応させて、時代を生き抜こうとしています。

また、ローマにおいても建物の外観は1000年程度を経たものであっても、それをローマに相応しい街並として捕え、歴史的街並を保存しているのである。(内部は時代に対応した最先端のインテリアでデザインされ、中世から未来へと一飛びした感がまた魅力を倍増させています。)

さらに、ザルツブルグは岩塩で富を蓄え、

中世の町並がプラハの認識を深める。



(プラハ城下の大使館が点在する街区)



(プラハ市民のいこいの場となっている旧市庁舎の時計台とその周りの旧市街広場)

OBだより



ザルツブルグ音楽祭の会場・フェスティバルハウス

中世建築の中に最高級ブティックが並ぶローマのコンドッティ通り

その富を利用して何もないアルプスの麓にローマの宮廷文明を開化させようと努力を重ね、それが、モーツァルトを始めとする数々の音楽家を輩出し、音楽の都としての地位を築きました。これを現代まで大切に受継ぎ、カラヤンに代表される夏のザルツブルグ音楽祭を催しするに至り、欧州の政治家、文化人が社交の場として利用し、世界有数の祝典都市として、成り立っているのです。この魅力がサウンド・オブ・ミュージックを生出し、世界に憧れる都市の一つとしてあげられるのです。

これに反して、ブラハ、ローマに匹敵する人口集積、経済活動を行っている日本での歴史都市、京都を見ると、東山・北山沿の寺院を中心とする観光地に於いては、観光資源の保護という立場から、面的に歴史的環境が保存されているものの、都心部になると、ペンシルビルに町屋が囲まれ、路地は自動車に占有され、商店街には広告や商品があふれ、街並は統一された調和を見出さず事なく、京都特有な歴史的なスケール感が失われています。あまりにも、街並を構成している細かい部分に至るまで、古きものと、従来のものと、先端的な新しいものとが入り乱れているのです。そこには、人々の求めている統一感がないのです。古いものを大切にするのか、先端的なもので構成していくのかの姿勢がありません。人々の趣味がその人のテリトリー内で勝手に自己表現しています。

このように、ストック文明により西欧は歴

史に根差す各都市特有な魅力を保持し、それを現在にうまく適応させているのに比べて、日本のフロー文明重視は歴史都市を大きく変革しています。これは都市を形成している一要素である建築においても確たる芸術性を問わず、大衆に受け入れ易い事を第一面に押し出して、過去の遺産を忘れていく嫌いがあるからであります。そうであれば、街が統一ある景観を取戻そうとしても、それをまとめる理論が見当る訳がありません。

日本の都市が固有の文化に根づいた魅力を持つためには、我々は何を受継ぎ、何を引渡すかを認識して、日本の持つ特性と歴史性を活かして固有の社会空間を造り上げなければなりません。

都市もやはり自然と同様、一つの原則に沿って生き、発展をしているのであります。歴史的な、自然的な資質であるストックを見出し、それを認識しないと都市は魅力的にならないのです。また、その都市の一要素である建物は、都市の持つ魅力をベースとして特有な空間を演出し、さらに、都市の魅力を増加させるものでなければなりません。その街特有な空間は新たな人生の舞台となり、歴史を深め、特有な文化を高めていくのであります。生活する人が誇れる街を造ろうではありませんか。

生活に必要な空間が充足された現在、未来に繋げる創作として、魅力ある都市づくりに力を合わせていきましょう。

平成元年度行事

五三会学生部会

大学3年間があつというまに過ぎ、4年生になってこの五三学生会部会に入り、今日まで仕事をやって来ました。大学生活最終の一年というだけあって、なにか思い出として残ることを、そして建築学科生に「五三学生会部会」という名前を浸透させるために、いろいろ努力してきました。そこで、平成元年度の活動内容を上げてみます。

平成元年度の活動内容

平盛元年

- 4月 オリエンテーションセミナー
五三会の説明および新入生との交流
7月 ビアパーティー
4年生のチューター会として企画、運営をする
11月 工大祭
卒業設計展示、ゼミ紹介、1年生の研究課題の公開、五三会コンペ発表会など

平成2年

- 3月 卒業生謝恩パーティー (予定)

以上のような活動内容でした。このような数少ない行事でしたが、企画、運営、協力することによって、4年生同士のつながりや、先生方、建築学科全体そしてOBの方々と、一般の学生以上に親しくなったような気がします。

新役員も決まり、私達は卒業研究を提出し、卒業を待つばかりとなりました。五三学生会部の仕事をすることによって、いろいろな人間関係が生まれるのであれば、新役員達にも頑張ってもらい、**「広島工業大学建築学科」**を楽しく学べる場にしてほしいと思います。そのためにも、学生諸君、OBの方々の御協力をこれからもよろしくお願いいたします。

私の五三会学生部会の理想

建築学科 五三会学生部会会長 廣田裕二

大学4年の最後の年に、五三会の学生部会の役員になり色々な事を、手伝ってきました。役員に選ばれた時は、簡単な気持ちでひきうけましたが、なにせ若輩の私が、先輩方に指導してもらえず、右も左もわからない事に中心としてやっていこうというのが無理な事で役員になってから反省してします。そのため他の役員の方には、たいへん迷惑をかけたと思います。

しかし、4年又は4年以下の学生は、五三会はどんな行動をしているかは、一部の者を除けば、まったくしらないと思います。私も3年で役員になるまでしりませんでした。私が思うのに五三会というのは、4年になったものだけがいろんな行事に参加している様に見えます。4年生の五三会でなく、建築学科全学年の五三会にしなければいけないと後で思いました。

これだけの人数をまとめていくのは無理ですが早いうちから少人数だけでも、4年次以下の学生を参加させれば良いと思いました。4年生だけの横のつながりだけでなく、縦のつながりである下級生からのもりあげがあると、いろんな会としての理想だと思います。理想に少しでも近づけるように、がんばってみたいです。「自分は無関係」ではなく、始めは遊びがてらにやられたらどうでしょうか。五三会という会があるから、好きでやる、にしても、とにかく仲よく、楽しくやって下さい。

以上



あー楽しいな！ デザインコース

二井浩樹

全くこのくそ忙しい時になんて思って卒研中間発表というものを近日にひかえて毎日、ゼミ室の悪い空気を思いっきり吸い込みながら髪はボサボサなんて気にしない、楽しい日々を送りながら、ふと五三会の原稿の件を思い出して急いで書き始めると……。

話は飛びますが、この一年間で建築学科について、よく考えさせられた一年であったと思う。五三会学生部に所属していることにより、建築に対する意識が遠いものからより現実に見えるというところまで来たのでは、と思う。かなり大げさかもしれないが今年の6月末に開かれた卒研展により、自分の意識が建築に傾いたといってもいいすぎでない。この展示は、先に続いていくのだろうが、これはよい事だと思う。このことによって、五三会を知り、建築に触れ合う機会が増えた。

こんな感じで後輩君も、是非などと思うのは自分だけかもしれないが……。

現実には、1年次から3年次にかけて建築に対する意識はうすいのではないか、課題にしばられたという感しか残らないかもしれないが、五三会に属する又は参加することによってかなり開けてくるのではないかと思う。これは自分自身が思うのだけれども、実際は、そんな固いものでなく、楽しいものであった様な気がする。

自分自身、五三会の幹部にならせていただいて、結構楽しめた。いろんな経験をした。損得の勘定ぬきでやってみるのも楽しいのではないか、様々な経験は人間を、大きくしていくのではと思う。これは大げさかもしれない。

後輩諸君も自分の意識の目覚めをいろんなチャンスを見つけては広げて欲しい。なんでもいい。学生なんだからの妥協は許さない。それはそれでいいじゃないか。

それにしても忙しい
そりゃあ無事だ……？

15th ITSUMIKAI COMPETITION

第15回五三会コンペ入選発表

コンペ報告

盛岡隆治

今年の五三会コンペは、第15回という、節目であることから第15回記念五三会コンペと、称して県内で活役中の建築家の方に審査を、お願いし、記念コンペにふさわしい、魅力あるものを、との主旨で、開催いたしました。

その結果、建築家として、又、近畿大学工学部、講師として御活役中の古谷誠章先生が、心よく審査をお引受け下さり、作品も、広島工業大学9作品、呉工業高等専門学校2作品、近畿大学工学部1作品と計12作品のいずれも、劣らぬ、力作がよせられ、コンペ委員一同、とても嬉しく思えました。

10月19日、古谷誠章先生の厳正かつ公平な、審査の結果、次記のとおり入選が決定しました。おめでとうございます。又、11月3日、広島工業大学大学祭にて表彰式ならびに講評

会が行なわれ、先生には一作品、一作品の的を射た講評とその後のテーブルを囲んでのディスカッションはコンペに応募された方々はもちろんのこと、我々にも次への飛躍の足掛りとなったのでは、と思っております。

古谷誠章先生につきましては、課題作成、審査、講評会と御多忙にもかかわらず、何度も足をはこんでいただき、なにかと御協力いただいたこと、厚く御礼申し上げますと、共にこれからのより一層の御活躍をお祈りいたしております。

末尾となりましたが、15回記念コンペを開催するにあたり五三会の方々（協賛事務所・氏名・リストは別記のとおり）の御協力及び御援助をいただきましたことを、五三会コンペ委員一同、厚く御礼申し上げます。



1等賞

鳥羽知夫・角南典和（近畿大学）

2等賞

加川栄作・矢吹和弘・松崎雅恵（呉工専）

3等賞

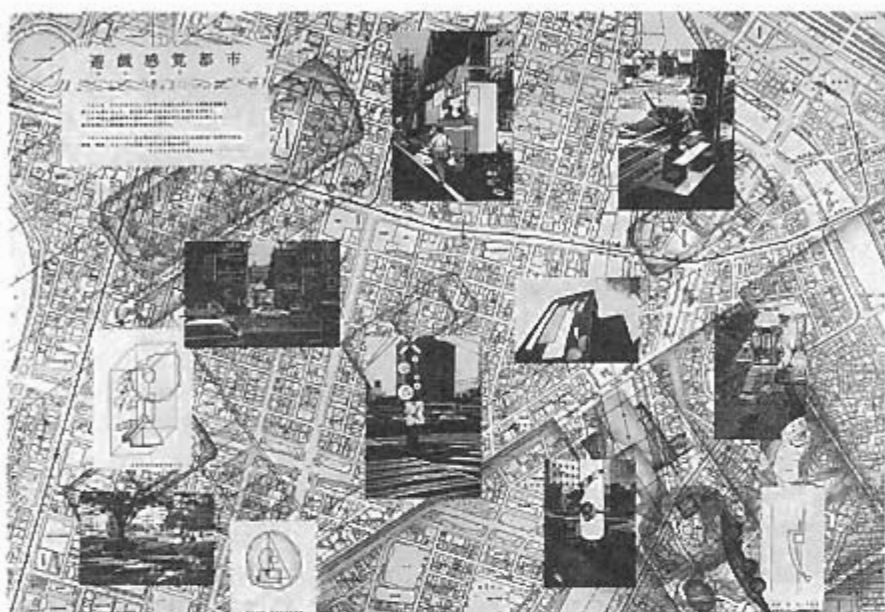
木村真二・笠井壮一（広工大）

佳作

有吉貴司（広工大）

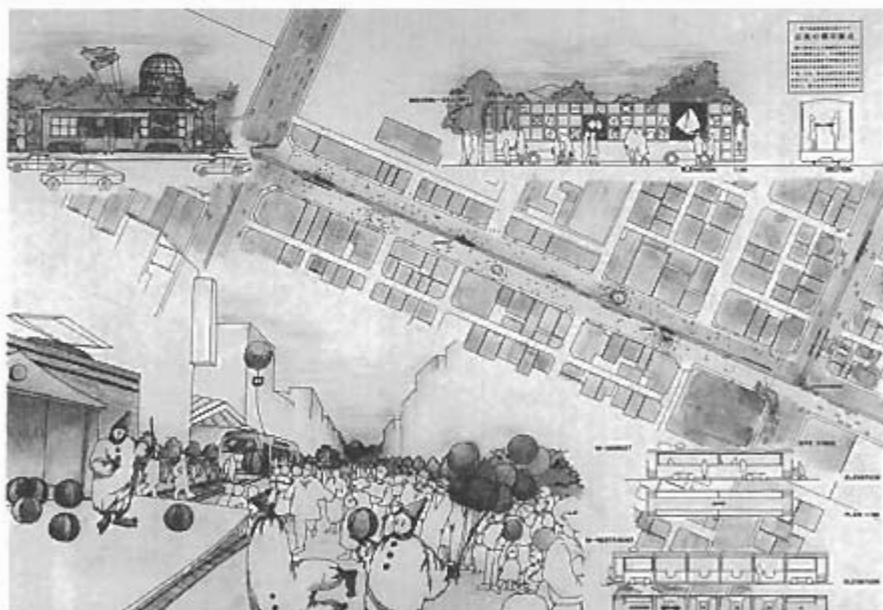
佳作

小倉義弘・吉村賢治（広工大）



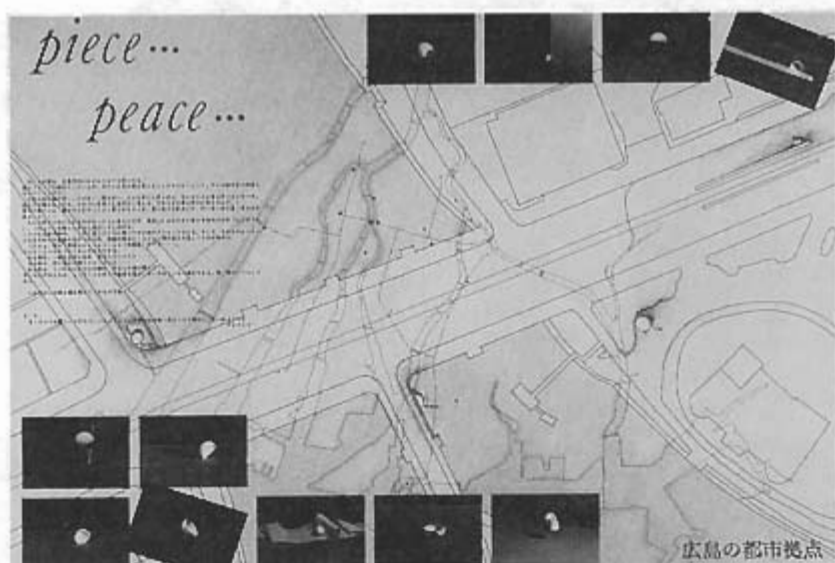
1等賞

鳥羽知夫・角南典和（近畿大学）



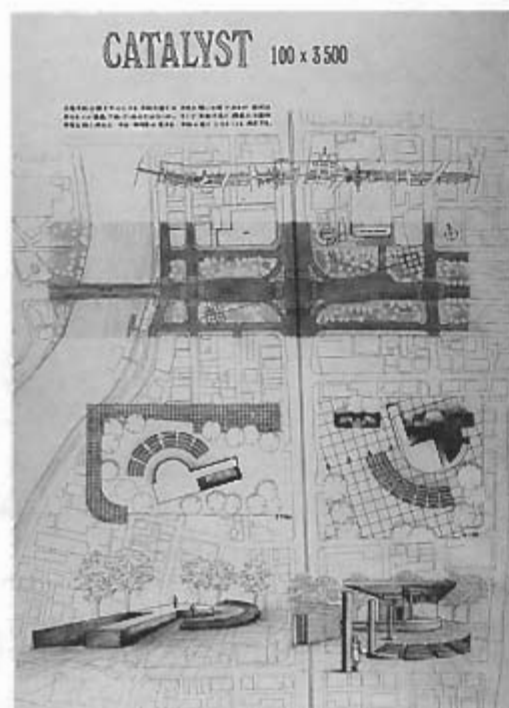
2等賞

加川栄作・矢吹和弘・松崎雅恵（農工専）



3等賞

木村真二・笠井壮一（広工大）



佳作 有吉貴司（広工大）



佳作 小倉義弘・吉村賢司

建築家 古谷 誠 章

同じ都市を見るのでも街を俯瞰しようとする視点と、人の目の高さから観察しようとする姿勢とでは見えるものが自づと違います。もともと翼を持たない人間にとって、アイレベルに立った、文字通り地に足のついた考察を欠くことができないのは言うまでもないはずなのですが、一旦計画者として図面や地図を目の前にすると、得てして街を真上から見下してしまいがちになります。そうした意味で今回の課題は街区や特定の敷地を根こそぎに全取り替えるのではなく、自分の足で広島街を歩み、都市を楽しむための拠点をあちこちにもたらそうとするものでした。ここでは「場所を探す」、「拠点を考える」が共に必要とされたわけです。応募された12案はいずれも真摯な作品で共感を持ちましたが、難を言えば拠点化する場所の設定によって、現状の問題を掘り起こし、かつ生み出された拠点到、場所としての魅力や創造的な提案性を合わせ持つという、その両者を兼ね備えたものが少数に限られていたように思います。

その中で1等の鳥羽知夫+角南典和案は、図面から作者がまさに街を歩き回った形跡がうかがわれ、人の見逃してしまいそうな歩道橋のたもとや消火柱、ビルの隙間や壁面などを自ら発見して、その各所に決して大げさでない楽しい空間装置を小気味よく提案していて秀逸でした。図面表現も簡潔にして要を得ていて手際よく、とてもわかりやすいものです。よくできているので敢えて注文をつけるとするならば、各エレメントに相応しい素材感にも突き詰めた提案や表現があればさらに充実したと思います。

2等の加川栄作+矢吹和弘+松崎雅恵案は文句なく楽しい作品で、路面電車そのものを移動レストランや移動店舗のように考えたものです。歩行者天国と併用する提案ですが、街を活性化する装置としてはその移動性があるからこそ、様々な地域での企画に対応できそうでなかなか有望です。これにも注文をつけるとすれば車輛だけでなく電停の方にも一工夫あればなおよく、例えば、厨房車が到着すると電停がカフェテラスになるというように相互に連動させていたとすると、ひょっと

すると1等案と互角以上だったかも知れません。

3等木村真二+笠井壮一案は半球形の殻のバリエーションによって随所に都市装置を設置しようとするものです。造形力に秀でていて単純ながら切れ味はよいのですが、場所選びが多少おざなりで、これで作者の言うように都市の目印として有効に働くかには疑問が残ります。

佳作の有吉貴司案、小倉義弘+吉村賢司案は、くしくも両案が相補されればなかなかの提案になるように思われます。前者は平和大通りと電車路線の接点を基に、通りを歩行者にとって一連の楽しい道としようとするもので、拠点の選定に説得力がありますが、築かれたものに空間的魅力が欠けています。一方後者はシャープな造形が目を引くのですが、設置場所に必然性が乏しく、相互の軸線も地上では直接視認できず意味を持たないのが心残りでした。

選にもれた他の案にも着眼点や発想に大いにうなづけるものがありましたが、今一步の詰めが結果を分かれました。しかし、もともとこの課題が志向したのは、ある敷地に建てる唯一の実施案を選ぶためのものではありませんから、こうした諸提案が広島市の都市の中に同時に併存可能なものなのです。相互が刺激し合ったり、相乗的に魅力を高め合うように賑やかに実現できれば尚更幸いのように思います。最後になりましたが、応募者各位の健闘を心から称えとともに、意義深いこのコンペを支える五三会OB諸兄の活動に敬意を表したいと思います。



建築学科ゼミ紹介

(ゼミ毎の卒研テーマ)

(中尾 好昭先生指導)

- 白石 茂夫 15階建鉄骨造建物に関する研究
(その1)PC壁版の復元力特性実験
- 中垣 眞一 " (その2)振動解析
砂田 龍男 " (その3)免震化の研究
末石 伸行 " (その4)PC壁版の有限要素解析
内田 一成 クレーン荷役時振動応答のシミュレーション
(その1)振動応答の模型実験
山本 弘樹 " (その2)振動応答解析と精度の検討
川中 隆文 " (その3)モータ・構造体・吊り系の応答解析
加藤 文昭 立体骨組構造動的応答の汎用プログラム開発に関する研究
織川 一昭 高強度コンクリート製PC壁版の研究
(その1)調査に関する実験研究
池田 浩也 " (その2)計量化に関する研究
伊藤 嘉基 " (その3)製造工法に関する研究
田口祐一郎 鉄筋コンクリート造純ラーメン構造に関する研究
小野田大一郎 鉄筋コンクリート造建物の床振動に関する研究
中村 保昌 衝撃力による機械基礎の振動に関する研究
麻野 修二 法隆寺金堂の構造解析

(船越 聡先生指導)

- 平石 雅英 計量コンクリートの諸特性
月岡修治・田所啓志・谷岡正教・三島弘上
高強度コンクリートの力学的諸特性
免田浩治・古川秀夫・広田裕二・松田保弘
高強度コンクリートの調査設計および施工

(佐藤 立美先生指導)

- 加藤光壮・児玉光則
新素材を用いた鉄筋コンクリート梁の開発に関する基礎的研究
金子 敬・佐藤協二
薄肉鋼板補強材で補強した鉄筋コンクリート有孔梁の終局耐力に関する実験的研究
金本長則・鈴木博昭
薄肉中空管で拘束した鉄筋コンクリート柱の終局耐力と塑性に関する実験的研究
菅 雅文・村上幸繁
鉄筋コンクリート部材のひびわれ算定式に関する基礎的研究
平嶋義博・西山哲也
既存鉄筋コンクリート造建物の耐震性能と構造耐力に関する研究

(丹羽 博亨先生指導)

- 佐々木良大 法隆寺金堂の構造に関する研究 (構造諸元の想定)
藤沢 健吾 法隆寺金堂の構造に関する研究 (模型製作)
中本 淳一 法隆寺金堂の構造に関する研究 (構造の特性)
片岡 康生 歴史博物館
壺 敏英 呉地区に建つ現代美術館
横浦 利仁 多目的図書館
本多 英二 海辺に建つ古典美術館

- 森 和美 ウォーターフロントのリゾート計画
内田 圭 公園に建つ中規模美術館

(水田 一征先生指導)

- 有吉 貴司 (設計) Take five—宇品島に建つ野外音楽堂
内田 康裕 " () 月に雲雲、花に風
大塚 英男 " () 広島産業展示館 hexagon-free port
喜多島文恵 " () 遊戯—飛び立つ子供たちへ—
島田 逸夫 " () By the light of the SUN
高橋 真治 " () Transfiguration—古い物から新しい物へ—
長見 寛之 " () Raise-back-from-the-cleat-for back to life.
西原 一寿 " () 生、往、異、滅、そして…。
福丸 隆雄 " () Be unconscious of the passage of time…
藤井 定信 " () エトルスコ
藤山 信博 " () 繁博—彫刻庭のある美術館—
尾敷 博行 " () 基町文化センター
寄本 淳一 " () 門—ENTRANCES—

(藤原 道正先生指導)

- 梅野正純・沖本俊幸
椅座安静時の代謝熱量の年間変動に関する研究
笹岡 実也・八束英次
腰高窓による熱対流時の床近傍空気温度に関する研究
穴戸義彦・清水昌男
中国地方の標準気象データの整備
森山 晃・若藤功人
運動負荷時の代謝熱量の年間変動に関する研究
青木文洋・高橋 一雄
山陰と山陽の都市住宅における夏冬の熱環境調節法に関する調査研究

(牛島 賢象先生指導)

- 井上耕治・植田武志・栗谷光史
団地内における住宅の構造と生産プロセスについて (五月が丘団地四丁目の場合)
迫田英樹・橋本泰臣
団地内における住宅の構造と生産プロセスについて (五月が丘団地五丁目の場合)
大西裕一郎・楠 誠司・三浦 学・池田豊久
セメント及び骨材の基本的性状について (材料実験授業時間中に実施した実験結果の検討)

(天満 祥弥先生指導)

- 細本 浩 建築外装の色彩の調査研究—日市における建築外装の色彩分布調査—
弘中 一久 老人施設の計画
児玉 光司 古建築の熱環境に関する研究—復元民家の実測とその比較・検討—
中村 貴幸 S区民センターの音響設計—残響可変装置を持つ多目的ホールの音響特性—
大木 淳 木造住宅のシロアリ被害に関する研究—中

- 国地方におけるアンケート調査のまとめー
木村 成則 屋内プールの設計計画ー衛生面を重視した
設備設計ー
新名 健二 美術館の設備計画ー美術品の保存と展示照
明を考慮した設備設計ー
佐々木 泉 百貨店の設計計画ー店内環境を重視した設
備設計ー

(高松 隆夫先生指導)

- 稲村克也・尾野誠一郎
アイソパラメトリック要素を用いた積層ゴ
ム解析法に関する研究
藤田真美・重松正昭・山下麻裕
軸力と曲げを受けるH形鋼部材の局部座屈
後の変形性状に関する実験的研究
中村晃基・真木裕克
軸力と曲げを受けるH形鋼柱に与える材端
弾性回転拘束の影響について
中森 武生 モンテカルロ法による信頼性設計法に関す
る基礎的研究

(森保 洋之先生指導)

- 片平明三・堀 宏行
集合住宅の質の変容に関する研究
堀内 勉・梶原 寛・柳田真理
住宅の集合形態の視覚的把握に関する建
築計画的研究
内山敬祐・中尾紀正
超高層住宅の居住実態に関する調査研究
助川政司・山崎奈美
学校と地域教育関連施設の連携に関する計
画的研究
山中義憲・渡部一昭
集合住宅の戸建感に関する住民意識調査の
分析
江原 享香 Umbrella-In the shade of daddy's un-
brellaー小学校低学年校の設計ー
京面 竜 日本心ー再開発の流れを考え直すー
高坂 良介 RETURN TO MYSELFー人間同様の
時ー
西川 一成 Movable Structureーfunctional com-
plexー
和田 治子 COMPLEXー神のいつき島へー

(浅野 照雄先生指導)

- 大木留治・大山 遼・渡部雄三
地盤の抵抗に関する実験的研究
古賀 鉄也 建築CAD教育のためのグラフィックス表
示によるシミュレーション
寺尾 秀和 立体ラーメンの弾塑性応答解析
中川博文・西山 孝・濱本浩利
不整形地盤の微動特性
森森 一彦 不整形地盤における立体ラーメンの地盤応
答に関する研究
前岸 保成 強度のばらつきを考慮した多質点系立体
ラーメンの弾塑性振動解析
松田 裕寿 強震時の構造物の弾塑性最大応答変位に関
する研究

(佐藤 洋先生指導)

- 安藤隆男・上田正樹・柿本秀二・高橋修治・手島有一
・高崎大作 建築単位空間の事例分析。数量化W数によ
る形状係数の分析
高松 誠 クラスタ分析による形状係数の分析
上境 康行 吉和村に建つリハビリ専門学校
川口 修治 廿日市地域スポーツセンター
先木早百合 都市空間の再生ー遊びー
篠 さおり 3世代2世帯住宅の構成
田丸 正人 吉和村に建つ長期保養施設
永野 利枝 吉和村に建つ短期保養レジャー施設
二井 活樹 大竹市に建つリゾート施設
米沢 昌司 庄原市に建つリゾート施設
和田 守 大学キャンパス施設
樋口 剛 建築設計教育に向けてのCADプログラム
開発へのケース・スタディ

(菅原 辰幸先生指導)

- 中畑修治・井上 圭
安佐北区における近年の建物の立地並びに
規模の現況について
高橋 満・牟田達八・下田将生
安佐南区における建物の用途及び形態の規
制と現況
森山康彦・岡村 淳
安佐南区における近年の建物の立地並びに
規模の現況について
出射 明広 アーバンリゾートホテル
木原 幸男 THE SHOW ROOM
磯道 計寛 県民の浜に建つHOTEL

(西川 加穂先生指導)

- 井林 茂・寺尾一弘・中川敬太・仲村 剛
店舗付マンションの設計計画に関する基礎
的研究
内本康雄・片山博之・佐々木泰法・中平 洋・森近良友
建築設計 広島市西部丘陵都市に建つ高層
者を配慮した住宅の設計
羽原 輝明 西武丘陵都市に建つコミュニティーセン
ターの設計
細田 慎二 有料老人ホームの設計
三熊 教之 高齢者向けマンションの設計

(清田 誠良先生指導)

- 星俊一郎・杉本 亮・安岡英男
中国地方(鳥取県)における気象要素の解析
山口敏幸・吉本裕二・村上富紀
中国地方(山口県)における気象要素の解析
福井善人・福原洋明・戸井克彦
建築物周辺の地上面静圧分布に関する実験
的研究前方建築物の影響について
山下 修・吉武 渉・石橋伸治
建築物周辺の地上面静圧分布に関する実験
的研究周辺建築物の影響について
村上伸和・桜井徹也・高森政宏
建築物周辺の地上面静圧分布に関する実験
的研究地表温度の影響について

1989年度内定者一覧表

〔デザインコース〕

氏名	事 業 所
有 吉 貴 司	男 広
安 藤 隆 明	主 茂
出 井 上 康	行 樹
井 上 田 正	樹 裕
上 田 康	雄 祐
内 田 本 康	敬 香
内 山 原 塚 英	男 雄
江 大 垣 柿 秀	二 寛
柿 片 康 明	生 三
片 山 口 博 修	之 司
川 喜 多 島 文 幸	恵 男
本 京 高 榊 先	寛 介
佐 々 木 良 真	理 合
佐 々 木 良 逸	浩 太
鳥 助 薄 高	夫 司
高 高 高 高	作 治
高 高 高 高	治 誠
高 高 高 高	之 人
高 高 高 高	英 仁
高 高 高 高	一 弘
高 高 高 高	正 治
高 高 高 高	太 洋
高 高 高 高	剛 一
高 高 高 高	枝 樹
高 高 高 高	成

寿 明 雄 信 吾 博 二 浩 行 二 之 美 友 行 美 恵 司 昭 子 守 満 八 彦 寛 圭 剛 久 正 一 淳 生
 一 輝 隆 定 健 信 慎 宏 英 教 和 良 博 奈 義 昌 一 治 達 康 計 一 一 淳 将
 原 原 丸 井 澤 山 田 本 多 熊 近 敷 崎 中 沢 部 田 田 橋 田 山 道 田 口 中 嶋 本 村 前
 西 羽 福 藤 藤 藤 細 堀 堀 本 三 森 森 屋 山 山 米 渡 和 和 高 半 森 磯 内 樋 弘 福 寄 岡 下

XX

〔 広島工業大学建築学科 〕

教員及び非常勤講師名簿

〔建築学科教職員・専任教職員〕

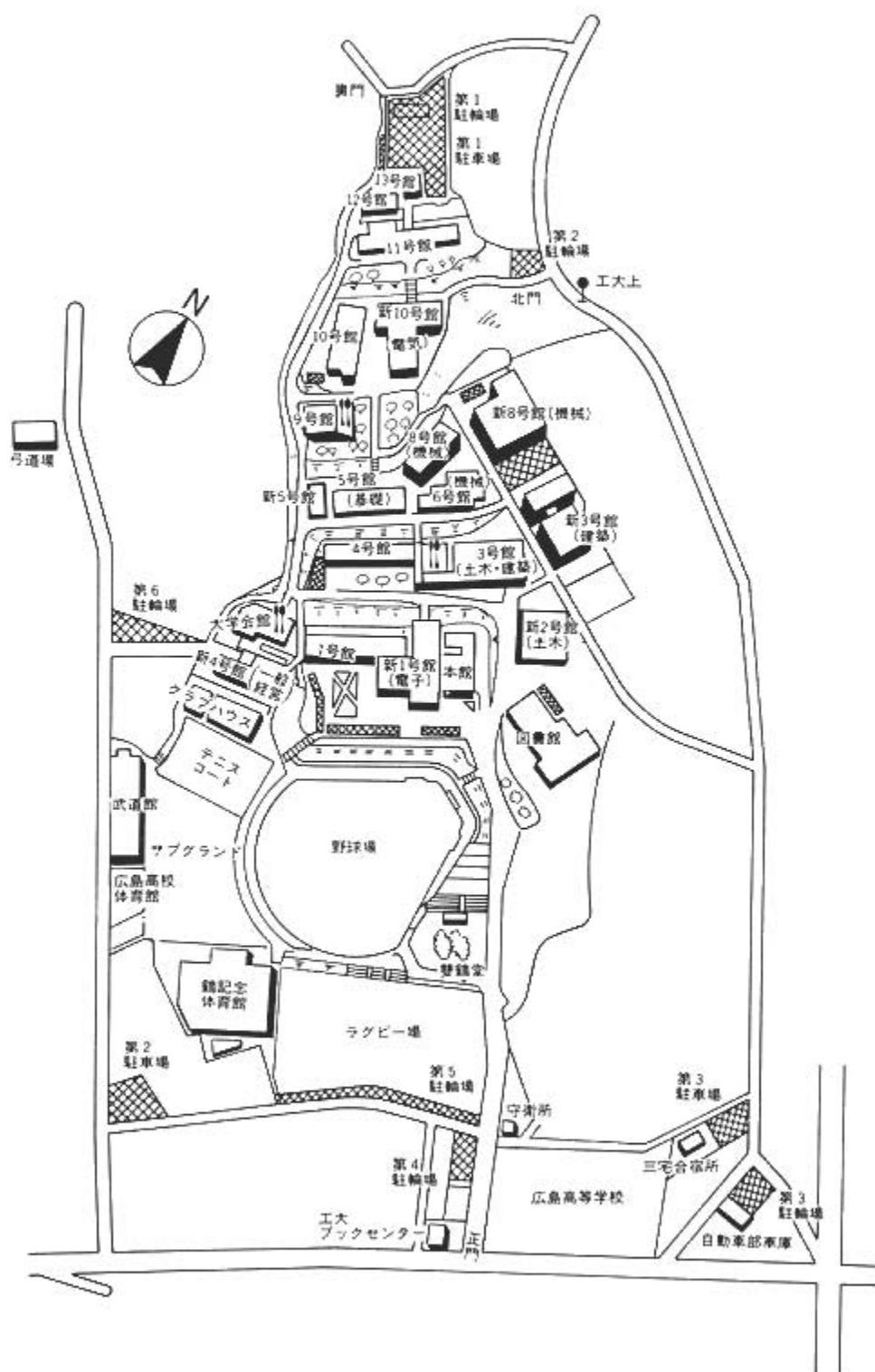
氏 名	住 所	郵便番号	電話番号
中 尾 好 昭 教 授			
船 越 稔 "			
佐 藤 立 美 "			
丹 羽 博 亨 "			
水 田 一 征 "			
篠 原 道 正 "			
牛 島 賢 象 助 教 授			
天 満 祥 弥 "			
高 松 隆 夫 "			
森 保 洋 之 "			
浅 野 照 雄 "			
佐 藤 洋 "			
菅 原 辰 幸 "			
西 川 加 福 "			
清 田 誠 良 講 師			
手 越 義 昭 "			
大 林 真 技 術 職 員			

〔招聘講師〕

佐 藤 重 夫	
林 公 重	
青 木 栄	
谷 喜 夫	
杉 本 俊 多	
小 野 泰 芳	
入 野 忠 宣	
有 馬 秀 一	
田 中 恒 潤	
花 輪 田	
川 田	



母校キャンパス案内



第17回総会のお知らせ

日 時 平成2年4月15日（日曜日）

1. 五三会総会……午後3時30分
2. 工大同窓会……午後4時
3. 懇 親 会……午後6時

場 所 広島市中区大手町1丁目5-3 県民文化センター TEL(082)245-2311

内 容 建築学科同窓生五三会会員の多数が参加し、建築学科各教職員の参加を求め、活動報告や会計報告を行ってのち、酒と豪華な料理で、昔話や同業としての話で新睦をはかる。

参 加 参加者は、下記事務室に電話連絡か、又は官製葉書に“出席”と書いて4月10日必着をもって申し込み下さい。

〔あ て 先〕

広島市佐伯区五日市町三宅 広島工業大学建築学科菅原研究室

〒738 TEL (0829) 21-3121 内465

会 費 4,000円 なお、懇親会は、工大同窓会と一緒にいきます。

（当日御持参下さい。前売券も発売しております。）

〔案 内 図〕



五三會 活動報告



幹事長 上之博文

五三會は、本年度の卒業生で22期目のメンバーを迎え、現在建築学科の卒業生は約4,200名に達しています。

会員各位におかれましては、建設会社、役所、設計業と様々な方面で御活躍のこととします。私達五三會も、会員各位の親睦と情報交換の場としての目的を達すべく活動しております。

平成元年度は、卒業生が20期を迎えたことを記念し、広島厚生年金会館で建築学科単独で総会、親睦会を行いましたところ、100以上の多数の参加があり盛大に催すことができました。会場では、アトラクションとして「かくら」の演技が行なわれる中、大学の先生、先輩、後輩が一体となって昔話、将来展望についての様々な話が花と咲きました。

平成元年度の活動内容は以下のとおりであります。とくに、五三會コンペは、第15回に当たり記念コンペとして審査員に近畿大学の古谷先生にお願いしたところ、こころよく引き受けていただき多くの出品があり充実したコンペになりました。ありがとうございました。また、五三會幹事会の充実ですが、五三會を将来ともども運営していくためには、会の骨格というべき幹事会の充実が大切となります。その幹事会に出席されていない「年度」があり、情報不足となりますので会員各位の御協力とそして幹事会への御理解、御参加をお願いしたいと思います。

平成元年度活動報告

1. 会報誌「五三會」第17号発刊
2. 第15回五三會コンペの実施
3. 五三會幹事会の充実
4. 五三會会員増加運動
5. 五三會会員住所カードの整理

平成元年度役員

- (会 長) 三上明夫 (KAZI建築設計工房)
 (副 会 長) 森田洋生 (広島市役所)
 中島伸夫 (樹L A T環境設計事務所)
 (会 計) 松本孝志 (広島市役所)
 河野秀徳 (広島県庁)
 (会計監査) 下 建蔵 (広島県庁)
 三宅智之 (広島県庁)
 (書 記) 下田卓夫 (樹アーバンブレイン)
 前田 真 (樹まちづくり研究所)
 (幹 事 長) 上之博文 (樹L A T環境設計事務所)

五三會は、昭和58年度から終身会費制を導入しており、会員のみに会報を送らせてもらっています。会費未払いの方及び未加入の方は早急に手続をお願いしたいと思います。下記五三會事務局へ御連絡下されば振込用紙をお送りさせていただきます。

〔五三會事務局〕

広島市佐伯区五日市町三宅
 広島工業大学建築学科菅原研究室内
 〒731-51 TEL (0829) 21-3121



広島工業大学建築学科同窓会 「五三会」会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- (1) 集 会
 - (2) 会員相互の連絡並びに互助に關すること
 - (3) 会誌及び会員名簿の発刊
 - (4) 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
 - (5) その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築学科卒業生のうち会費を納入した者
 - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築学科卒業生
 - (3) 学生会員 広島工業大学建築学科在学生
 - (4) 客 員 母校職員及び旧職員
 - (5) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- | | |
|---------------------|---------------|
| (1) 名誉会長 置くことができる | (2) 会 長 1 名 |
| (3) 副 会 長 2 名 | (4) 会 計 2 名 |
| (5) 会計監査 2 名 | (6) 幹 事 長 1 名 |
| (7) 幹 事 若干名 | (8) 書 記 2 名 |
| (9) 評 議 員 各卒業年度に若干名 | |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す。
 - (2) 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・書記・評議員は総会で正会員の中から選ぶ。
 - (3) 幹事長は幹事の中から互選する。
 - (4) 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する。
 - (4) 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する。
- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を統べる
 - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
 - (3) 会 計 会計事務に当る

- (4) 会計監査 会計を監査する
- (5) 幹事長 会務を主宰する
- (6) 幹事 会務を処する
- (7) 書記 書記事務に当る
- (8) 評議員 会務を評議する

第 9 条 役員の任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章 顧問

- 第 10 条 この会に顧問若干名をおく
- (1) 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
 - (2) 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会議

- 第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。
- 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。
- 第 13 条 総会は次のことを決める。
- (1) 会則の変更と改正
 - (2) 決算及び予算
 - (3) 役員の変更
 - (4) その他重要な事
- 第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。
- (1) 総会に附議する原案
 - (2) この会の運営に関する諸事項
 - (3) 事業委員会の組織
 - (4) その他緊急事項の協議
- 第 15 条 事業委員会は必要に応じて幹事により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。
- 第 16 条 会議の議決は会員の参加者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会計

- 第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
- (1) 会員は入会金と終身会費として、入会時 10,000 円を納入しなければならない。
 - (2) 学生会員は在学期間の会費として 3,000 円を納入しなければならない。
- なお、学生会員の会計は本会計より独立させる
- 第 18 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

第七章 委任事項

- 第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

付 則

終身会費については、昭和 58 年度から施行する。

人工衛星画像地図頒布のご案内

(財)鶴教育研究振興会 理事長 鶴 襄

現在、地球規模での環境問題に対し人工衛星による地球観測システムは、気象・海洋観測・資源探査・環境監視・土地情報管理などに不可欠な観測手段として世界的に広く認識されています。

このたび、(財)鶴教育研究振興会では、「広島工業大学リモートセンシング研究室」の協力を得て、地球観測衛星ランドサット(米国)、スポット(仏国)の画像データによる我国で初めての『人工衛星画像地図』の製作に成功しました。

この衛星画像地図は、これら研究グループの人工衛星によるリモートセンシング技術実用化研究の一環の成果であり、国際平和文化都市広島の都市環境の変遷に関する調査研究にも取り組んでまいりました。また近年は、中国四国地方における瀬戸内海を中心とした開発と環境保全の問題に成果が期待されています。

当財団では、当該分野の教育研究の普及を目的としてこの人工衛星画像地図を頒布しております。広島工業大学をご卒業の皆様にも是非ご活用いただければと念願する次第です。

頒布ご希望の方は、各職場におかれまして、まとまった枚数で下記までお申し込み下さいますようお願い申し上げます。

記

地図寸法：縦108.5cm、横76.5cmのカラー画像地図(広島市及びその周辺)

頒布価格：1枚 1,650円
(プラスチック円筒ケース付)

申し込み方法：別紙申し込み書を郵送又は電話連絡にてお申し込み下さい。
納品・請求書を発行いたします。

申し込み先：
〒731-51 広島市佐伯区三宅2-1-1
(財)鶴教育研究振興会
TEL 0829-21-3121(内線202)

人工衛星画像地図
(宇宙からみた広島とその周辺)
[概要]

この高精度人工衛星画像地図では、広島市の都市構造を明瞭に浮き彫りにし、広島湾を中心とした周辺市町村の土地利用の実態を鮮明なカラー画像地図の形で表現しています。広島湾に浮かぶかき筏、市街地の住宅、ビルディング、道路、橋梁はもとより、赤色部は1986年から1989年の3年間における宅地開発や造成による土地の改変を正確に表現しています。また、既存の地形図と海図の等高線、等深線や道路網などの線情報との位置の重ね合わせ処理も正確に行われています。

従来の地図に比べ、この衛星画像地図はまさにコンピュータ時代における付加価値の高い地図として注目されています。

日常生活では利用する機会の少ない人工衛星情報をこのような画像地図の形として一般的に利用できるようになりました。大学研究機関での研究のみならず民間企業及び行政情報としても土地利用や埋立・造成による海岸線の変化・環境の変化を時系列的に検知することができ、都市計画や環境計画における各種調査に有効に利用できます。また、小中高等学校における教育用資料としての活用も多いに期待できます。

世界に類を見ない美しい瀬戸内海の環境を保全してゆくための監視役として、この人工衛星画像地図が、今後各方面で活用されることを希望しています。

これまでの主な利用分野は、以下のとおりです。

土地利用調査	環境保全調査
都市環境調査	森林資源調査
土地分級調査	森林立地調査
災害保全調査	農作物作付・収量調査
水質汚染調査	積雪・融雪分布調査
海況調査	
地形調査	
構造地質調査	

編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

今回は卒業して現在に至るまでの自分を振り返って、今思い、今考える事をテーマに原稿をつりました。

会員からの寄稿が、一つの大きな情報です。近況、作品、紀行文、意見、趣味等、何でもよろしいですから事務局までお寄せ下さい。お待ちしております。

「五三会」第17号 編集委員

上木 薫(51) 広島県都市局営繕課

☎082-228-2111

小川 雅彦(53) 広島大学施設部建築課

☎082-241-1221



広島工業大学建築学科同窓会誌 「五三会」第17号

編集責任者 小川 雅彦

発行責任者 三上 明夫

企画・製作 アクト企画

発行 平成2年3月31日